



# 九州漁業調整事務所広報ページ

## よこわ



～統計資料を見てみよう～



### 九州の漁業を統計の視点から見てみよう

農林水産省HPでは、農林水産業に関する様々な統計資料が公開されています。

今回は「令和6年漁業・養殖業生産統計（概数値）」を用いてに、九州全体での漁業生産量とシェア率（※）をランキング化し、九州の漁業について分析してみます。

※シェア率：九州の漁業生産量が全国漁業生産量に占める割合。

養殖魚は（養殖）と表記。また、内水面の漁業生産量も含む。

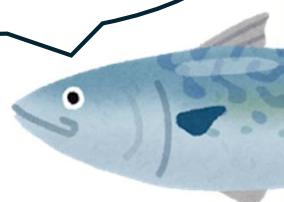
### 漁業生産量では”さば類”がトップ

さて、九州の漁業生産量が多い魚でランキング化した場合のベスト5はこのようになります。

		漁業生産量	シェア率
1位	さば類	(107,100 t)	42%
2位	まいわし	( 84,100 t)	13%)
3位	まあじ	( 50,300 t)	55%)
4位	うるめいわし	( 48,700 t)	71%)
5位	かつお	( 33,200 t)	14%)

さば類の漁獲量は全国で  
約256,000t！

島根、鳥取、宮城、岩手、茨城等で全国的に漁獲されているよ！



ということで、漁業生産量では、”さば類”が1位となります。  
さば類はまさば及びごまさばを指します。

シェア率も、九州で全国の漁業生産量の約4割を漁獲しており、いかに九州のさばが日本の食卓を支えているのかがわかります。

ちなみに、さば類だけで九州の漁業生産量(471,600t)の22%を占めており、その約8割が長崎県で漁獲されています。

まいわし、まあじ、うるめいわしの漁業生産量についても、長崎県での漁獲が九州全体の6~8割を占めており、長崎県の漁業の規模の大きさが伺えます。

## シェア率で見るとかんぱち（養殖）がトップ

続いて、シェア率で見ると以下のとおりになります。

	シェア率	漁業生産量
1位 かんぱち（養殖）	(79%)	200 t)
2位 うるめいわし	(71%)	48,700 t)
3位 むろあじ	(64%)	10,100 t)
3位 ぶり（養殖）	(64%)	700 t)
5位 うなぎ（養殖）	(62%)	10,000 t)



▲ カンパチ  
ブリ属の魚で、出世魚。  
天然魚は高価だが、養殖魚は  
お手頃な値段で入手可能。  
(出典：写真AC)

シェア率では”かんぱち（養殖）”が一位となります。

ぶりやひらまさとよく似た魚で、お寿司やお刺身などとして見かけることも多いかと思います。

また、シェア率のランキング全体を見ると、養殖魚が多くランクインしています。

養殖は特に宮崎県・鹿児島県で盛んに行われており、この2県だけで全国の養殖生産量のおよそ33%を占めています。

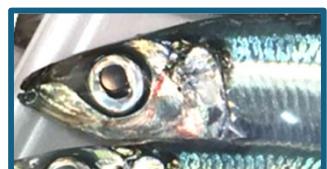
かんぱち（養殖）も、その多くが鹿児島県で養殖されています。

## 漁業生産量、シェア率ともに高い”うるめいわし”

ここまで、九州の漁業生産量とシェア率のランキングを見てきましたが、その両方にランクインした魚種がいます。

それが“うるめいわし”（漁業生産量48,700t, シェア率71%）です。

うるめいわしは写真のとおり、大きな目が特徴的な魚で、「めざし」に加工されているのをよく見かけるかと思います。  
また、お刺身で食べても絶品です！



▲ 脂瞼（しけん）が発達しているため、目がうるんだように見えるのが名前の由来。  
(出典：写真AC)

うるめいわしが実は、九州で多く漁獲されており、かつ、シェア率も高い魚種であるという点は、意外と知られていないのではないでしょうか。

お店で魚を見かけた際は、産地にも注目してみて、九州の漁業に思いを馳せながら味わってみてはいかがでしょうか？

